

31

千代田区景観まちづくり重要物件

柳森神社

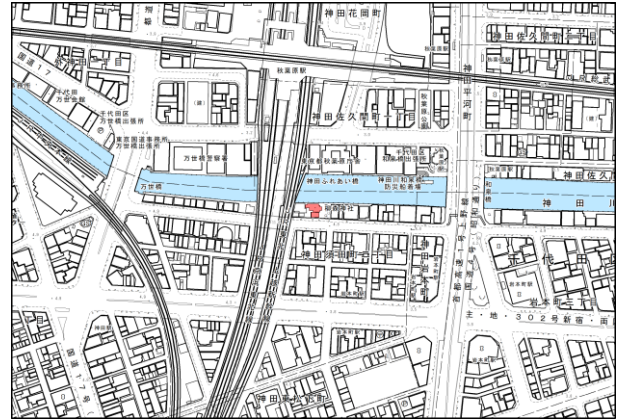
指定日 2003（平成 15）年 6 月 9 日

所在地 神田須田町二丁目 25 番地 1

設計者 不詳

竣工 1930（昭和 5）年

文化財等
指定状況



▲鉄道橋の隣にひっそりとたたずむ柳森神社

歴史・文化的特徴

1458（長祿2）年、太田道灌が、江戸城の鬼門除として現在の佐久間町一帯に植樹した柳の森に、鎮守として祀られたのがはじまりとされ、1659（万治2）年、神田川堀割の際に現在地に移りました。その際、柳の樹も堀の土手に移植され、江戸の名所になりました。境内の福寿社は「お狸さん」とよばれ、五代将軍綱吉の生母桂昌院が江戸城内に創建したと言われています。境内の13個の力石群が千代田区の有形民俗文化財に指定されています。



▲境内の福寿社

意匠・構造の特徴

近代和風の建物です。銅版平葺きの入母屋屋根で、平入り正面に向拝（ごはい）を葺き下ろした、小規模ですが格調ある神社のスタイルとなっています。

社務所は、屋根上に鉄骨を組んで屋上庭を増築してありますが、開口部の建具、瓦は古いものです。柳の木と板張りの和風建築が調和しています。

周辺景観との関係

敷地が道路面より低いので、建物全体を見ることができます。

建物だけでなく、柳の木が街並みの景観に潤いを与えています。

神田川に面していて、ビルの裏側が多い沿岸の風景に潤いを与えています。